

# 和歌山医大における取り組み

和歌山県立医科大学小児科 島友子、吉川徳茂

麻酔科 畑埜義雄

# 和歌山県立医科大学での取り組み が始まったきっかけは？

平成19年度文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」女性医師・看護師の臨床現場定着及び復帰支援に採択された。

# 取り組みが始まる前に

平成18年度に「和歌山県立医科大学における  
女性医師の現状と今後の課題」と題した学内  
アンケートを実施。

# 和歌山県立医科大学の現状

- 1) 教職員195名中、助教以上の女性は**10%**
- 2) 大学で働く女性医師の69名中**約63%**に当たる43名が挙児希望
- 3) **全ての女性医師**が仕事の継続を希望

# 女性医師が子育てと勤務を 共存させる条件

- 1) 上司、職場、夫の**理解**
- 2) 保育所、病児保育等の**インフラ整備**
- 3) 産休、育休中の**知識、技術の補充**
- 4) 職場復帰のへの**モチベーション**
- 5) 復帰後の**勤務体制**

# 女性医師が子育てと勤務を 共存させる条件

- 1) **FD教育、学生教育(ワークショップ)**
- 2) **保育所、病児保育室の整備**
- 3) **eラーニング**
- 4) **コーチング**
- 5) **ワークシェアリングの推進**

## 平成21年

女性医師支援評価委員会が作成したアンケート調査を実施する。

## 平成20年

- ① 女性医師支援評価委員会を設置する。
- ② eラーニング教材により情報を発信する。
- ③ 平成18年度に行った全学的なアンケート調査と同じ質問項目でアンケート調査を行う。  
これによってどの程度の意識変革が起きているかを知る。

## 平成19年

- ① 女性医師支援センターを設置する。
- ② ホストコンピューターを設置する。
- ③ 各医局・教室のeラーニング教材作成の準備。  
産休・育休をとる診療科がこれを準備する。
- ④ コーチングを行う認定コーチとの契約を締結する。
- ⑤ 現有の本学保育所を拡充する。
- ⑥ 病児保育室の場所の選定を行う。
- ⑦ 医局の男性医師等にFD教育を行う。講演会を企画する。

# 和歌山県立医大付属保育所



平成12年4月開所 平成19年定数50名⇒80名に  
医師の子供の入所が可能に、現在大学院生の子供の入所も検討中

# 病児保育室の増築（平成20年7月）





1) **各科の壁**はなかなか厚く、科によっての理解度の差を感じます。(できれば共通の認識の下で産休、育休の期間が取れればと思うのですが....。科の事情も違うのが実情です。)

2) 理解の進んだ科では明示している科もあります

**産前産後の休暇と復帰のタイミング  
復帰スタイル (4コース)**

**時短就業**

**復帰可能な職場と収入のバランス**

**取得資格とその継続**

**子どもの急病や学校行事に伴う休暇**

### 3) 育児休暇を取得した男性医師

周囲は賛否両論で、「男のくせに育児休暇をとるのか」という声もありましたが、「革新的なことだ」という評価の声もありました。自身としては、休暇をとって育児をしてよかったと思っています。育児をしたことで家族の大切さを感じることができました。家族のために仕事をして、家族のおかげで仕事をすることができていると考えています。

仕事に対すると同様に、育児にも家事にも高いモチベーションを持つ夫婦が生まれるためには、「育児・家事と仕事をバトンタッチしてよかった点」でお話したように早い時期から男女が協力し合っ  
て生活するスタイルを知ることが必要だと思います。そして、自分  
たちで家庭を維持し、仕事もしていきたいという強い意欲を持った  
夫婦があれば、周囲にはどうか温かい目で見守ってほしいと思  
います。

# 最後に

女性医師も医師は責任のある職業だという認識は必要です。

その上でこのような取り組みが勤務環境に変化をもたらし、全ての医師の働き方を変え、医師不足解消だけでなく、医療の質の改善につながることを願います。